

2023年度
(2023年4月～2024年3月)



環境経営レポート



 **エアウォーターグループ**

 **株式会社日本医療環境サービス**

発行日 : 2024年 8月 30日

[目 次]

1.	組織の概要	P1～P4
2.	対象範囲	P5
3.	環境経営方針	P6
4.	環境経営目標	P7
5.	環境経営計画	P8
6.	環境経営目標の実績	P9～P14
7.	環境経営計画の実施状況とその評価、 次年度の取組み内容	P15～P18
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	P19
9.	環境経営に関する取組み事例等の紹介	P20～P22
10.	代表者による全体評価と見直し・指示の結果	P23

1. 組織の概要

- ・ 事業所名 株式会社 日本医療環境サービス
及び代表者氏名 代表取締役 北村 洋輔
- ・ 所在地 福岡本社 福岡県糟屋郡粕屋町長者原東4丁目8-20
長崎事業所 長崎県長崎市京泊2丁目8-40
熊本営業所 熊本県熊本市東区長嶺西1丁目10-41
北九州事業所 福岡県北九州市小倉南区朽網3914-45
西港倉庫 福岡県北九州市小倉北区西港町111-1
- ・ 環境管理責任者氏名 営業係長 大澤 圭輔
- ・ 連絡先 TEL 092-938-2200
FAX 092-938-1110
E-mail info-nihoniryoushi@awi.co.jp
- ・ ホームページ <https://nihoniryoushi-kankyouservice.com/>
- ・ 事業の内容 産業廃棄物収集運搬業(医療系)
一般廃棄物収集運搬業
衛生資材販売

・ 事業の規模 ※2021年度より北九州事業所追加

	単 位	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	千円	1,443,815	1,785,193	1,591,125
従業員数	人	73	76	75
事務所床面積	m ²	1,832.5	1,832.5	1,832.5

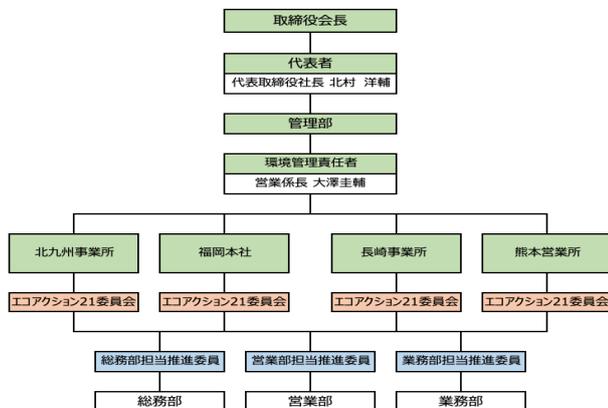
・ 法人設立年月日 昭和60年 3月 20日

・ 資本金 1,000万円

・ 廃棄物収集運搬実績(単位:t) ※2021年度より北九州事業所取扱量追加

分 類	廃 棄 物 の 種 類	2021年度	2022年度	2023年度
特別管理産業廃棄物	感染性廃棄物	10,566.7	11,898.6	10,777.8
	廃酸	0.4	0.1	0.1
	廃油	23.0	24.5	25.2
産業廃棄物	廃プラ、ガラスくず、金属くず	1,804.0	1,904.9	1,892.2
	廃酸	23.3	22.9	23.8
	廃アルカリ	6.5	8.0	9.2
	廃油	9.8	9.0	8.9
	汚泥	11.2	11.3	8.4
	その他(木くず)	10.5	9.9	10.8
一般廃棄物	事業系一般廃棄物	1,496.8	1,430.5	1,363.6
	合 計	13,952.1	15,319.5	14,119.8

・ 組織図 株式会社 日本医療環境サービス 組織図



・設備等の状況 (2024.8.1現在)

福岡本社						
保冷車	0.85t	1台	積替保管施設概要			
	1.0t	1台	産業廃棄物の種類	保管面積	保管上限	
	2.0t	17台	特別管理 産業廃棄物	感染性廃棄物	①19.44㎡	①42.77㎡
	3.0t	2台			②74.90㎡	②179.76㎡
	3.4t	2台		廃油	0.8㎡	0.72㎡ ³
	3.45t	8台		廃酸	0.8㎡	0.24㎡ ³
	3.65t	1台		廃アルカリ	0.8㎡	0.24㎡ ³
	ダンプ車	2.9t	1台	汚泥	0.8㎡	0.18㎡ ³
キャブオーバ	4.75t	1台	産業廃棄物	①8.54㎡	①11.96㎡ ³	
	2.0t	2台		②8.47㎡	②11.86㎡ ³	
合計	36台	③8.04㎡		③16.08㎡ ³		
		④10㎡		④15㎡ ³		
		⑤11.58㎡		⑤17.3㎡ ³		
		汚泥(廃薬品類に限る)	0.21㎡	0.1㎡ ³		

長崎事業所						
保冷車	2.0t	6台	積替保管施設概要			
	3.0t	1台	産業廃棄物の種類	保管面積	保管上限	
	3.45t	1台	特別管理 産業廃棄物	汚泥	37.44㎡	0.3㎡ ³
	3.65t	1台		廃油		0.3㎡ ³
	3.75t	1台		廃酸		0.3㎡ ³
ダンプ車	2.9t	1台		廃アルカリ		0.3㎡ ³
ダンプ車	2.75t	1台	感染性廃棄物	22.64㎡	82.9㎡ ³	
	パッカー車	3.45t	1台		燃え殻	1.077㎡ ³
合計		14台	汚泥		0.8㎡ ³	
	廃油		0.8㎡ ³			
	廃酸		0.8㎡ ³			
	廃アルカリ		0.8㎡ ³			
	廃プラスチック類		28.0㎡ ³			
	紙くず		1.077㎡ ³			
	木くず		1.077㎡ ³			
	繊維くず		1.077㎡ ³			
	動植物性残さ		0.864㎡ ³			
	ゴムくず		1.077㎡ ³			
金属くず	1.077㎡ ³					
ガラスくず等	1.077㎡ ³					
水銀使用製品産業廃棄物	1.077㎡ ³					

熊本営業所					
保冷車	1.25t	1台	最大保管量		36.25t
	1.9t	1台	車両から車両への積替えに限る。		
	2.0t	1台	産業廃棄物の種類	積替場所面積	
	3.0t	6台	特別管理 産業廃棄物	汚泥	224.04㎡
	3.45t	1台		廃油	
	合計	11台		廃酸	
				廃アルカリ	
	産業廃棄物	感染性廃棄物	224.04㎡		
燃え殻					
汚泥					
廃油					
廃酸					
廃アルカリ					
廃プラスチック類					
ゴムくず					
金属くず					
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず					

北九州事業所					
保冷車	1.2t	1台	積替保管設備なし		
	1.5t	1台			
	2.0t	4台			
	3.0t	3台			
	合計	9台			

産業廃棄物収集運搬業				許可項目														備考		
都道府県及び政令都市	優良処理業者認定	積替保管	許可年月日有効期限	許可番号	特別管理産業廃棄物		産業廃棄物													
					廃油	廃酸	汚泥	感染性廃棄物	廃プラスチック	金属くず	ガラスくず等	燃え殻	廃油	廃酸	廃アルカリ	ゴムくず	汚泥	紙くず	木くず	繊維くず
福岡県	●	●	2021.3.6～2028.3.5	特管 第0406002589	●	●	●	●												・所在地 福岡県糟屋郡粕屋町長者原東四丁目115番1 ・種類(1) 感染性廃棄物 ・面積 ①19.44m2 ②74.90m2 ・保管上限 ①42.77m3 ②179.76m3 ・積み上げることができる高さ ①2.2m ②2.4m ・種類(2) 廃油 ・面積 0.8m2 ・保管上限 0.72m3 ・積み上げることができる高さ 1.05m ・種類(3) 廃酸 ・面積 0.8m2 ・保管上限 0.24m3 ・積み上げることができる高さ 0.6m ・種類(4) 廃アルカリ ・面積 0.8m2 ・保管上限 0.24m3 ・積み上げることができる高さ 0.6m ・種類(5) 汚泥 ・面積 0.8m2 ・保管上限 0.18m3 ・積み上げることができる高さ 0.3m ・許可の条件 廃棄物の積替え及び保管行為は、積替え保管場所以外では行わないこと。
	●	●	2024.6.19～2031.6.18	産廃 第04010002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・所在地 福岡県糟屋郡粕屋町長者原東四丁目115番1 ・種類(1) 廃プラスチック類・金属くず・ガラスくず等・燃え殻・廃油・廃酸・廃アルカリ・ゴムくず(一部、石綿含有産業廃棄物・水銀使用製品産業廃棄物を含む。又、自動車等破砕物は除く) ・面積 ①8.54m2 ②8.47m2 ③8.04m2 ④10m2 ⑤11.58m2 ・保管上限 ①11.96m3 ②11.86m3 ③16.08m3 ④15m3 ⑤17.3m3 ・積み上げることができる高さ ①1.4m ②1.4m ③2.0m ・種類(2) 汚泥(廃薬品類に限る) ・面積 0.21m2 ・保管上限 0.1m3 ・許可の条件 廃棄物の積替え及び保管行為は、積替え保管場所以外では行わないこと。
長崎市	●	●	2024.5.31～2031.5.30	特管 第07963002589	●	●	●	●												・所在地 長崎市京泊2丁目8-40 ・面積 37.44m2 ・種類 保管上限 保管方法 汚泥 0.3m3 屋内・容器 廃油 0.3m3 屋内・容器 廃酸 0.3m3 屋内・容器 廃アルカリ 0.3m3 屋内・容器 感染性廃棄物 53.15m3 屋内・容器
	●	●	2024.5.31～2031.5.30	産廃 第07913002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・所在地 長崎市京泊2丁目8-40 ・面積 23.32m2 ・種類 保管上限 保管方法 燃え殻 1.077m3 屋内・容器 汚泥 0.8m3 屋内・容器 廃油 0.8m3 屋内・容器 廃酸 0.8m3 屋内・容器 廃アルカリ 0.8m3 屋内・容器 廃プラスチック類 28.0m3 屋内・容器 紙くず 1.077m3 屋内・容器 木くず 1.077m3 屋内・容器 繊維くず 1.077m3 屋内・容器 動植物性残さ 0.864m3 屋内・容器 ゴムくず 1.077m3 屋内・容器 金属くず 1.077m3 屋内・容器 ガラスくず・コンクリート 1.077m3 屋内・容器 くず及び陶磁器くず 1.077m3 屋内・容器 水銀使用製品 1.077m3 屋内・容器 産業廃棄物
長崎県	●	●	2024.6.3～2031.6.2	特管 第04250002589	●	●	●	●												
	●	●	2024.6.3～2031.6.2	産廃 第04200002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
佐賀県	●	●	2021.4.26～2028.4.25	特管 第04153002589	●	●	●	●												
	●	●	2021.4.26～2028.4.25	産廃 第04103002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
熊本市	●	●	2021.4.5～2026.4.4	特管 第018163002589	●	●	●	●												・所在地 熊本市東区長嶺西1丁目2411番4 ・面積 224.04m ² ・最大保管量 35.6t 車両から車両への積替えに限る ・特別管理産業廃棄物の種類 ・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・感染性廃棄物
	●	●	2021.4.5～2026.4.4	産廃 第018113002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	・所在地 熊本市東区長嶺西1丁目2411番4 ・面積 224.04m ² ・最大保管量 35.6t 車両から車両への積替えに限る ・産業廃棄物の種類 ・燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類 ・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
熊本県	●	●	2023.6.20～2030.6.13	特管 第04355002589	●	●	●	●												
	●	●	2023.6.14～2030.6.13	産廃 第04305002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
大分県	●	●	2018.6.15～2025.6.14	特管 第04457002589	●	●	●	●												
	●	●	2018.4.27～2025.4.26	産廃 第04407002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
山口県	●	●	2023.12.13～2030.12.12	特管 第03550002589	●	●	●	●												
	●	●	2023.12.13～2030.12.12	産廃 第03500002589					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	

* 2011年4月の法令改正により、都道府県知事許可で当該県内全域の産業廃棄物収集運搬が可能となり、政令都市市長の許可は失効した。
但し、長崎市は、長崎事業所の「積替・保管」許可の為、必要となっている。

・一般廃棄物収集運搬業許可内容

(2024.8.1現在)

	積替え保管	有効期限	許可番号	許可項目	許可の条件
長崎市		2023.8.20 ～ 2025.8.19	長崎市一廃 許可第513号	一般廃棄物(し尿・浄化槽汚泥・特別管理一般廃棄物を除く)	洗車設備を確保し、収集車をつねに清潔に保持すること。廃棄物は必ず分別収集し、それぞれ市が指定する処理施設へ搬入すること。

2. 対象範囲（全組織・全活動）

- ・ 対象組織 株式会社 日本医療環境サービス
福岡本社 福岡県糟屋郡粕屋町長者原東4丁目8-20
長崎事業所 長崎県長崎市京泊2丁目8-40
熊本営業所 熊本県熊本市東区長嶺西1丁目10-41
北九州事業所 福岡県北九州市小倉南区朽網3914-45
西港倉庫 福岡県北九州市小倉北区西港町111-1

※ 2021年度より事業拡大の為、北九州事業所、西港倉庫を
対象範囲に追加。

- ・ 対象活動 特別管理産業廃棄物収集運搬業(医療系)
産業廃棄物収集運搬業(医療系)
一般廃棄物収集運搬業
衛生資材販売

3. 環境経営方針



【企業理念】

社名の日本医療環境サービスの頭文字 **n** をデザイン化して地表をイメージし、その地表に自然に優しく処理されたクリーンな廃棄物として土に還る様子をシンボルマークにしたのが弊社の社章です。

今や全世界では地球環境の保全が人類共通の課題であり、有限な地球資源を可能な限り有効利用し循環型社会の一翼に寄与するため、廃棄物の積極的リサイクルを推進し、以って社会に貢献することを会社の理念と致します。

【環境経営方針】

弊社は「収集運搬車両」に関する燃料及び事務所・倉庫の電力の消費が環境負荷の最大要因となっています。事業活動に伴う法令等の遵守は当然のこととして、環境マネジメントを積極的に活用・維持し、次の活動を通して環境負荷の低減を図り、社員一同会社内外の緑化活動を推進し、会社周辺に植木の植栽、事務所内には観葉植物を設置し、緑に囲まれた職場環境を作り、社会や地域への責務を果たしていきます。

- ① 廃棄物のリサイクルの啓発を図り資源の再利用に貢献します。
- ② 環境経営の課題として収益性の改善及び働き方改革による生産性向上に努めます。
- ③ 環境への取り組みとしての下記の重点項目について環境負荷低減化を図り、管理向上に努めます。
 - 収集・運搬時の車両燃料の削減と二酸化炭素の発生抑制
 - 倉庫及び事務所の節電
 - 洗車・洗濯・散水での水使用量の削減
- ④ 環境経営の取り組みとしてSDGsを指標に継続的改善を誓約いたします。
- ⑤ 法令等を遵守して地域環境の保全に努めます。
- ⑥ 社員及び関係者に対する環境知識の普及啓発に努めます。

作成日 2005年8月6日

改定日 2021年7月1日

株式会社 日本医療環境サービス

代表取締役 北村 洋輔

4. 環境経営目標

* 基準年：2021年度

* 環境経営目標については下記のとおり各事業所別に纏めた。

* 北九州事業所及び西港倉庫は事業を一体として実施しており環境負荷は、北九州事業所と負荷の大半を占める西港倉庫を合わせて集計している。

項目		単位	事業所	基準年(2021)	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
1-1	二酸化炭素排出量 総量削減	kg-CO ₂	全社	997,182.9	992,300.0	990,450.0	988,700.0	987,100.0	
			本社	541,584.4	539,000.0	538,000.0	537,000.0	536,000.0	
			長崎	186,891.1	186,000.0	185,550.0	185,300.0	185,100.0	
			熊本	118,110.4	117,500.0	117,300.0	117,100.0	116,900.0	
			北九州	150,597.0	149,800.0	149,600.0	149,300.0	149,100.0	
	二酸化炭素排出量 ÷ 受託廃棄物収集 量	kg-CO ₂ /t	全社	70.0	68.2	66.8	65.5	64.2	
			本社	81.1	79.1	77.4	75.8	74.2	
			長崎	59.4	57.8	56.6	55.5	54.4	
			熊本	74.6	72.5	71.1	69.7	68.4	
			北九州	53.3	51.8	50.9	49.8	48.9	
1-2	購入電力	kWh	全社	52,014.0	51,760.0	51,660.0	51,550.0	51,500.0	
			本社	16,483.0	16,400.0	16,370.0	16,340.0	16,320.0	
			長崎	12,617.0	12,560.0	12,530.0	12,500.0	12,490.0	
			熊本	11,116.0	11,060.0	11,040.0	11,020.0	11,010.0	
			北九州	11,798.0	11,740.0	11,720.0	11,690.0	11,680.0	
1-3	軽油・ガソリン等 使用量総量削減	L	全社	380,654.6	378,700.0	377,920.0	377,320.0	376,830.0	
			本社	208,125.3	207,000.0	206,600.0	206,300.0	206,000.0	
			長崎	71,097.4	70,750.0	70,600.0	70,450.0	70,400.0	
			熊本	44,601.9	44,400.0	44,310.0	44,220.0	44,180.0	
			北九州	56,830.0	56,550.0	56,410.0	56,350.0	56,250.0	
	全車両走行距離 ÷ 軽油・ガソリン等 使用量 (車両実燃費)	km / L	全社	7.5	7.6	7.7	7.8	7.9	
			本社	7.3	7.4	7.5	7.6	7.7	
			長崎	7.5	7.6	7.7	7.8	7.9	
			熊本	8.5	8.6	8.7	8.8	8.9	
			北九州	7.6	7.7	7.8	7.9	8.0	
2	一般廃棄物 総排出量削減	kg	全社	3,979.0	3,940.0	3,900.0	3,860.0	3,820.0	
			本社	1,890.0	1,880.0	1,870.0	1,860.0	1,850.0	
			長崎	422.0	410.0	400.0	390.0	380.0	
			熊本	707.0	700.0	690.0	680.0	670.0	
			北九州	960.0	950.0	940.0	930.0	920.0	
3	水使用量削減	m ³	全社	794.0	777.0	762.0	747.0	732.0	
			本社	368.0	360.0	355.0	350.0	345.0	
			長崎	209.0	205.0	200.0	195.0	190.0	
			熊本	145.0	140.0	135.0	130.0	125.0	
			北九州	72.0	72.0	72.0	72.0	72.0	
4	教 育	社員	回	全社	50	52	52	52	52
				本社	12	12	12	12	12
				長崎	14	14	14	14	14
				熊本	14	14	14	14	14
				北九州	10	12	12	12	12
	ユーザー	回	全社	21	28	32	36	40	
			本社	15	15	16	17	18	
			長崎	6	7	8	9	10	
			熊本	0	3	4	5	6	
			北九州	0	3	4	5	6	
5	受託廃棄物収集量 (再生資源を含む)	t	全社	14,235.7	14,540.0	14,820.0	15,100.0	15,380.0	
			本社	6,679.5	6,810.0	6,950.0	7,080.0	7,220.0	
			長崎	3,148.7	3,220.0	3,280.0	3,340.0	3,400.0	
			熊本	1,582.3	1,620.0	1,650.0	1,680.0	1,710.0	
			北九州	2,825.3	2,890.0	2,940.0	3,000.0	3,050.0	

* 環境経営目標値の削減率については、基準年(2021)より0.2%削減を目安として設定している。

* 廃棄物排出量削減は、事業所及び営業所から排出する一般廃棄物に限る。

産業廃棄物の排出量はないので一般廃棄物のみを削減目標としている。

* 購入電力の二酸化炭素排出係数 九州電力 2021年度 調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh使用

* PRTR制度対象物質となる化学物質は未使用のため目標及び活動から除外している。

2021年度 (基準年)	項目	単位	全社	本社	長崎	熊本	北九州
	走行距離	km	2,861,594.0	1,519,934.0	533,394.0	378,784.0	429,482.0
	軽油・ガソリン等 使用量	L	380,654.6	208,125.3	71,097.4	44,601.9	56,830.0

5. 環境経営計画

1) 購入電力・化石燃料の使用削減による二酸化炭素排出量の抑制・削減

・ 軽油・ガソリンの燃料消費量の削減 — 業務部・営業部

- ① 収集・運搬車両のコース・搬入処理場の検討。
- ② 安全運転・アイドリングストップの実施。
- ③ 始業時車両点検と車両不調時早目の点検。
- ④ 収集後の処理場直接搬入を増加させるコースの検討。
- ⑤ 処理場搬入の効率アップの為、大型車の導入。
- ⑥ 車両買換え時のCO₂低排出車両への入れ替え。
- ⑦ エコドライブ勉強会の実施。
- ⑧ 車両エアコンのこまめなスイッチ操作の実施。

・ 購入電力の消費削減 — 総務部の率先により全社員

- ① エアコン設定温度の再確認・こまめなスイッチ操作の実施。 — 総務部
夏期27℃ 冬期21℃
- ② 室内蛍光灯の配列を考え、不要部所の消灯。
- ③ 業務の効率化による夜間点灯時間の短縮。 — プラットホームの活用・パレットの使用等
* 駐車場外灯の設定時間調整、LED電球への変更・太陽光発電装置設置済(本社のみ)

2) 一般廃棄物総排出量の削減 全社員

- ① 1度使用した白上質紙の裏面利用の促進。 — 裏面使用可能な用紙のトレイ設置
社内資料は裏面利用を原則とする。
- ② 両面コピーの実施促進。
- ③ 紙ゴミはシュレッダー処理し、リサイクルへ — 古紙リサイクル業者へ
- ④ 一般廃棄物の排出抑制(有価物・資源ゴミは分別)

3) 水使用量の削減 — 全社員

- ① 洗車時 — 止水装置使用
- ② 洗濯時 — 時間制限(30分)
- ③ 節水コマの取り付け・垂れ流しの禁止・まとめ洗い
- ④ 植木への水撒きの検討(やり過ぎないこと・季節による量の加減)

4) 教育 — 営業部

- ① 社員への勉強会・研修会の実施。
- ② ユーザー医療機関に出向いての研修会アピール及び実施。

5) 受託廃棄物収集量 — 営業部・業務部

- ① 取引先を増やし受託廃棄物収集量を増やす。

6. 環境経営目標の実績

・全社(福岡本社、長崎事業所、熊本営業所、北九州事業所・西港倉庫)における環境負荷の年間合計量は以下の通りである。

全社 年間合計量	(A)二酸化炭素排出量	1,064,289.7	kg-co2
	(B)一般廃棄物排出量	3,665.0	kg
	(C)総排水量	780.0	m3
	(D)受託廃棄物収集量 (再生資源を含む)221.90t	14,341.7	t
廃棄物収集量あたり(t)	A ÷ D =	74.2	kg-co2
	B ÷ D =	0.26	kg/t
	C ÷ D =	0.05	m3/t

全社 走行距離 (km)	2,960,139.0	全社 ガソリン(L), 軽油(L)	13,681.0	392,106.1
本社	1,589,027.0	本社	4,972.5	214,314.2
長崎	574,495.0	長崎	5,846.0	75,625.8
熊本	380,281.0	熊本	1,444.7	48,847.4
北九州・西港倉庫	416,336.0	北九州・西港倉庫	1,417.8	53,318.7

項目	単位	事業所	2023年度 目標	2023年度 実績	差異	達成率	評価	
1-1	二酸化炭素排出量総量削減	全社	990,450.0	1,064,289.7	▲ 73,839.7	92.5%	△	
		本社	538,000.0	571,993.3	▲ 33,993.3	93.7%	△	
		長崎	185,550.0	213,479.1	▲ 27,929.1	84.9%	△	
		熊本	117,300.0	133,557.1	▲ 16,257.1	86.1%	△	
	北九州	149,600.0	145,260.2	4,339.8	102.9%	○		
	二酸化炭素排出量÷ 受託廃棄物収集量	全社	66.8	74.2	▲ 7.4	89.0%	△	
		本社	77.4	86.7	▲ 9.3	88.0%	△	
		長崎	56.6	67.6	▲ 11.0	80.6%	△	
熊本		71.1	70.2	0.9	101.2%	○		
北九州	50.9	54.1	▲ 3.3	93.6%	△			
1-2	購入電力削減	全社	51,660.0	54,548.7	▲ 2,888.7	94.4%	△	
		本社	16,370.0	19,559.0	▲ 3,189.0	80.5%	△	
		長崎	12,530.0	12,508.0	22.0	100.2%	○	
		熊本	11,040.0	10,940.0	100.0	100.9%	○	
		北九州	11,720.0	11,541.7	178.3	101.5%	○	
1-3	軽油・ガソリン等使用量 総量削減	全社	377,920.0	405,787.1	27,867.1	92.6%	△	
		本社	206,600.0	219,286.7	12,686.7	93.9%	△	
		長崎	70,600.0	81,471.8	10,871.8	84.6%	△	
		熊本	44,310.0	50,292.1	5,982.1	86.5%	△	
	北九州	56,410.0	54,736.5	▲ 1,673.5	103.0%	○		
	全車両走行距離÷軽油・ガ ソリン等使用量(車両突然費)	全社	7.6	7.3	▲ 0.3	96.0%	△	
		本社	7.5	7.2	▲ 0.3	96.6%	△	
		長崎	7.7	7.1	▲ 0.6	91.6%	△	
熊本		8.7	7.6	▲ 1.1	86.9%	△		
北九州	7.8	7.6	▲ 0.2	97.5%	△			
2	一般廃棄物 総排出量削減	全社	3,900.0	3,665.0	235.0	106.0%	○	
		本社	1,870.0	1,848.0	22.0	101.2%	○	
		長崎	400.0	400.0	0.0	100.0%	○	
		熊本	690.0	677.0	13.0	101.9%	○	
		北九州	940.0	740.0	200.0	121.3%	○	
3	水使用量削減	全社	762.0	780.0	▲ 18.0	97.6%	△	
		本社	355.0	384.0	▲ 29.0	91.8%	△	
		長崎	200.0	201.0	▲ 1.0	99.5%	△	
		熊本	135.0	123.0	12.0	108.9%	○	
		北九州	72.0	72.0	0.0	100.0%	○	
4	教 育	社 員	全社	52	55	3.0	105.8%	○
			本社	12	12	0.0	100.0%	○
			長崎	14	15	1.0	107.1%	○
			熊本	14	16	0.0	114.3%	○
	北九州	12	12	0.0	100.0%	○		
	ユ ー ザ ー	全社	32	21	▲ 11.0	65.6%	×	
		本社	16	12	▲ 4.0	75.0%	△	
		長崎	8	5	▲ 3.0	62.5%	×	
熊本		4	2	▲ 2.0	50.0%	×		
北九州	4	2	▲ 2.0	50.0%	×			
5	受託廃棄物収集量 (再生資源を含む)	全社	14,820.0	14,341.7	▲ 478.3	96.8%	△	
		本社	6,950.0	6,596.8	▲ 353.2	94.9%	△	
		長崎	3,280.0	3,160.3	▲ 119.7	96.4%	△	
		熊本	1,650.0	1,901.5	251.5	115.2%	○	
		北九州	2,940.0	2,683.1	▲ 256.9	91.3%	△	

* 購入電力の二酸化炭素排出係数 九州電力 2021年度調整後排出係数 0.382kg-CO₂/kWh使用

* 今期、産業廃棄物の排出はありませんでした。

* PRTR制度対象物質となる化学物質は未使用のため目標及び活動から除外している。

達成率の定義 ○:達成率≥100% △:99%>達成率≥70% ×:達成率<70%

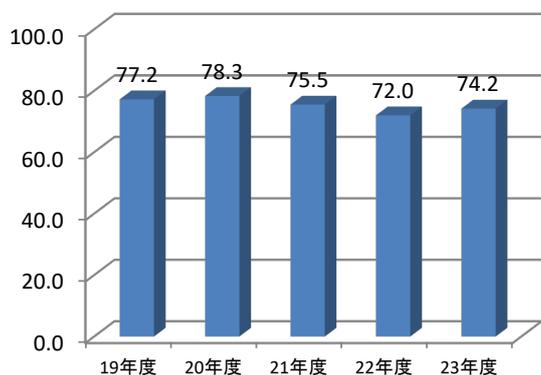
5年間の実績グラフ [全社]

※2019年度より熊本営業所を含む
 ※2021年度より北九州事業所を含む

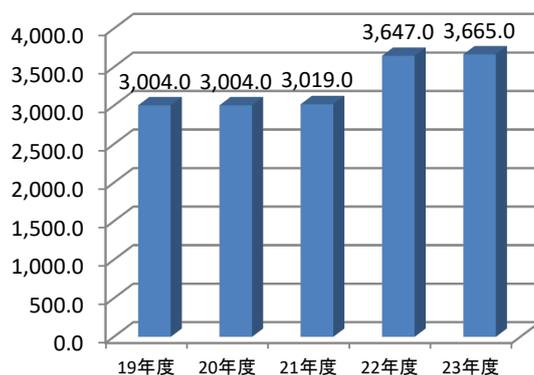
関連するSDGs



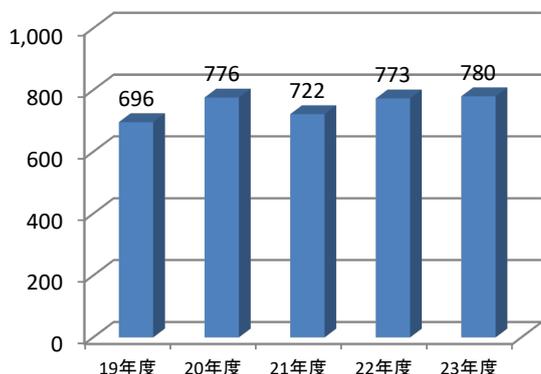
① CO₂排出量(kg-CO₂/t)



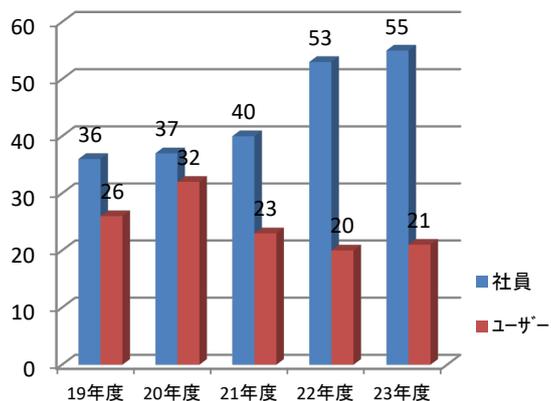
② 一般廃棄物総排出量(kg)



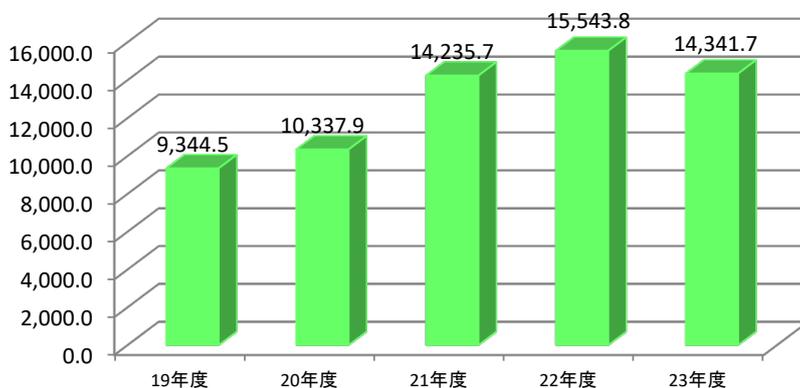
③ 水使用量(m³)

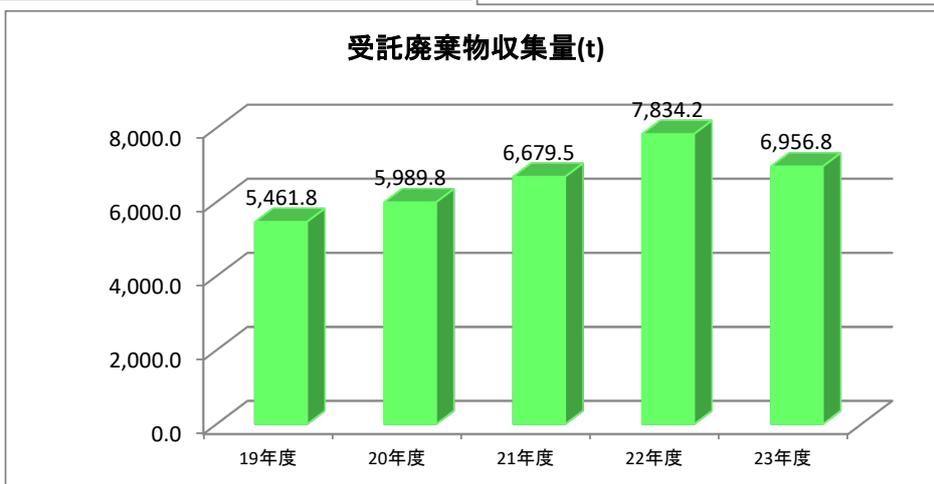
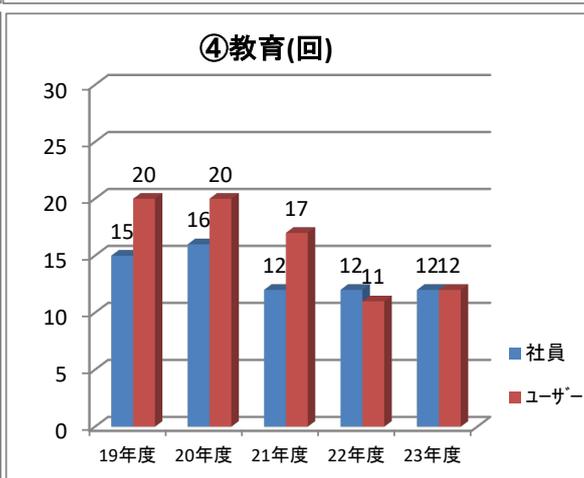
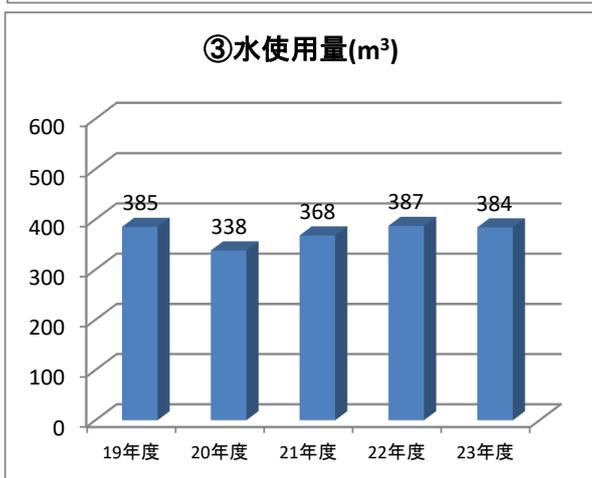
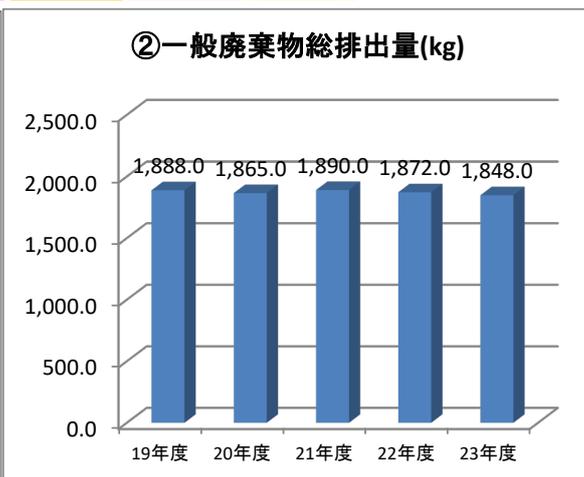
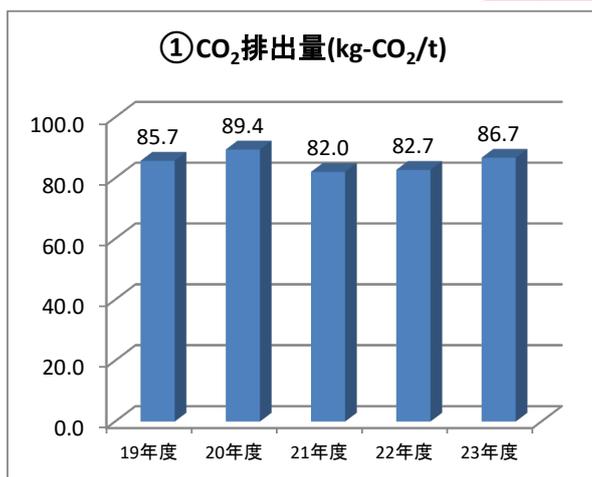


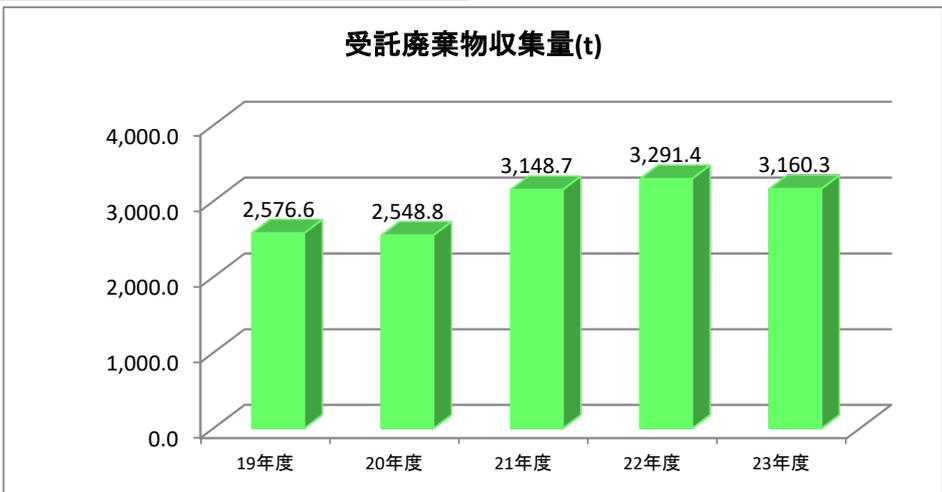
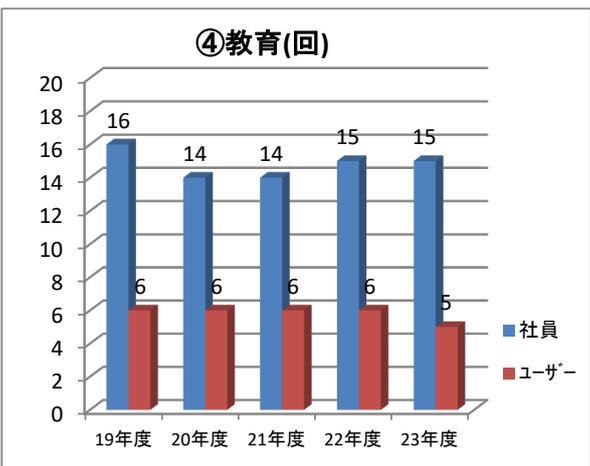
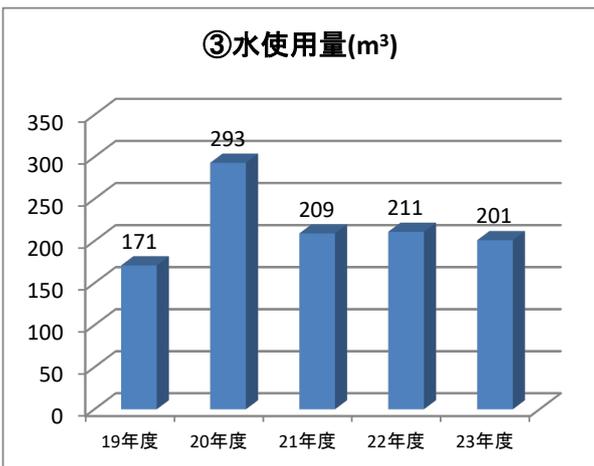
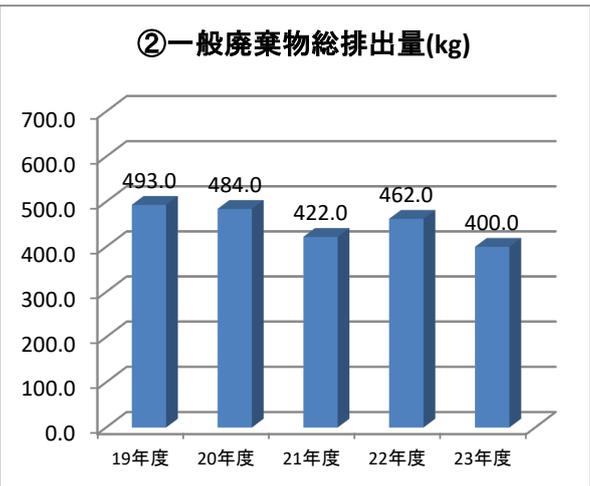
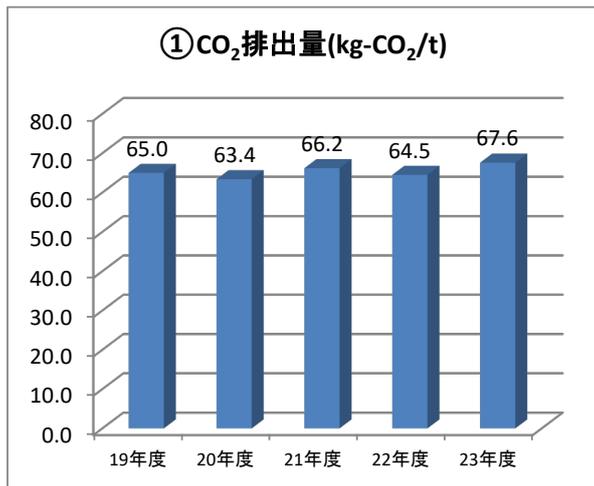
④ 教育(回)

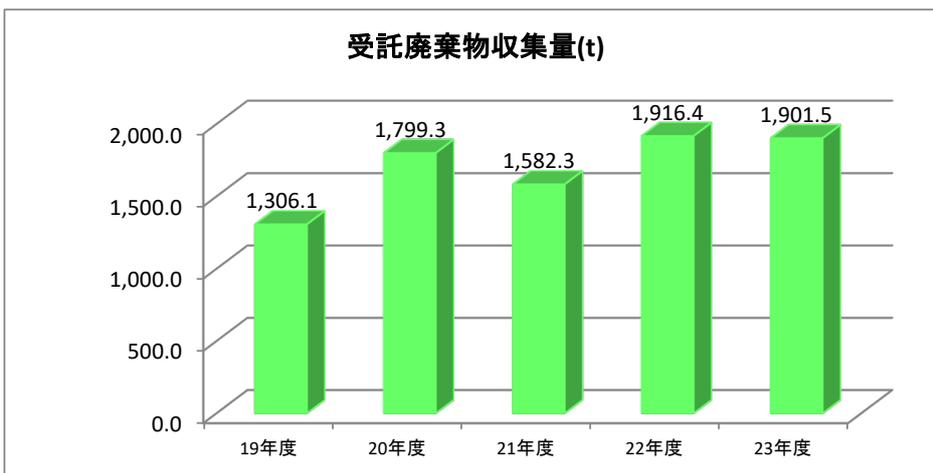
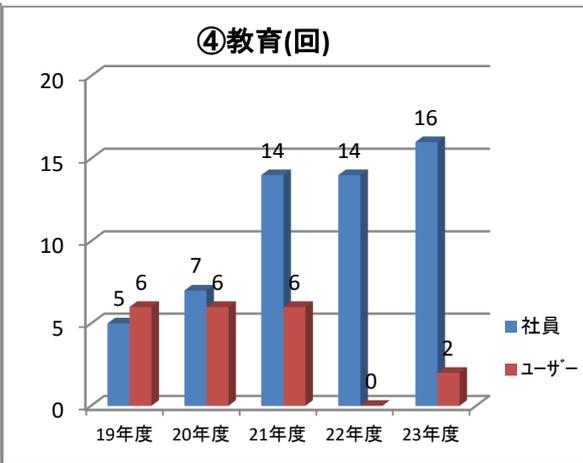
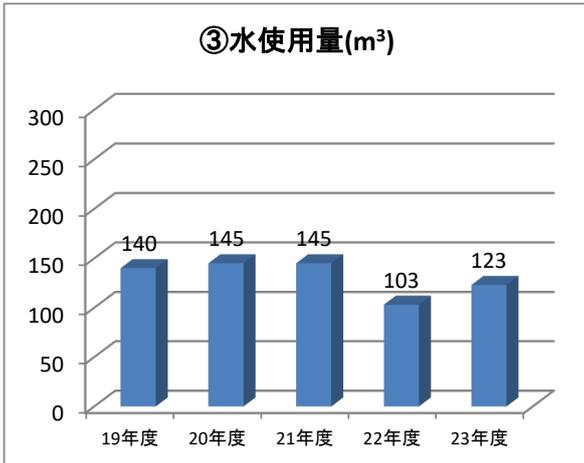
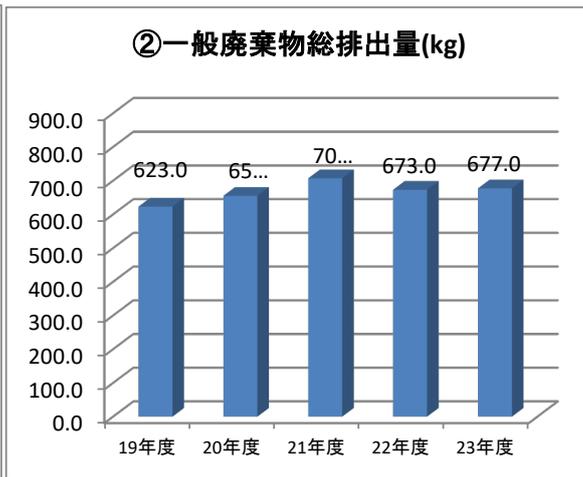
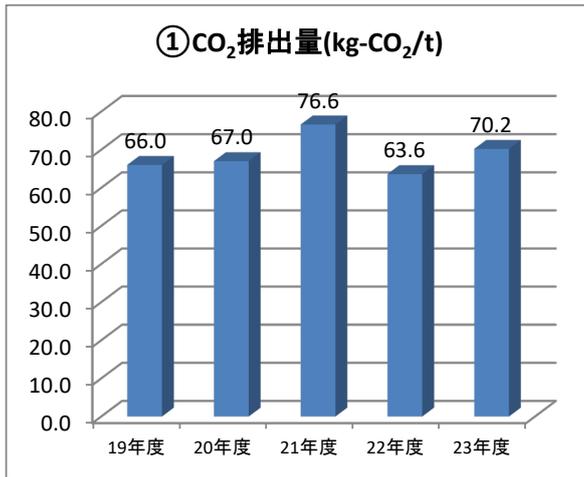


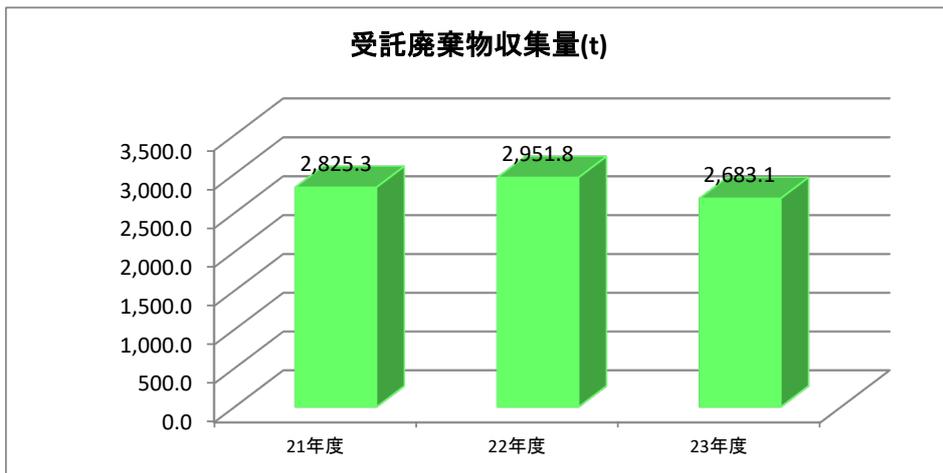
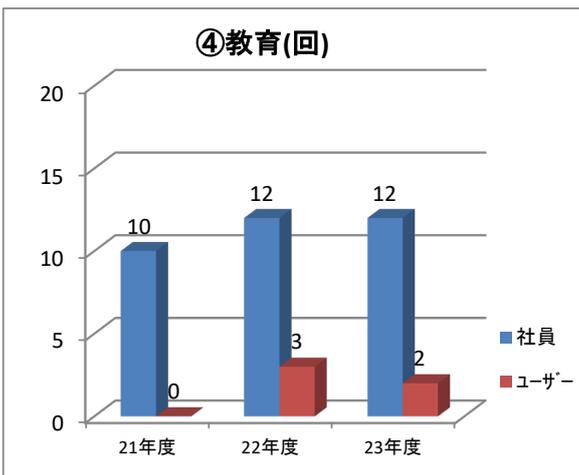
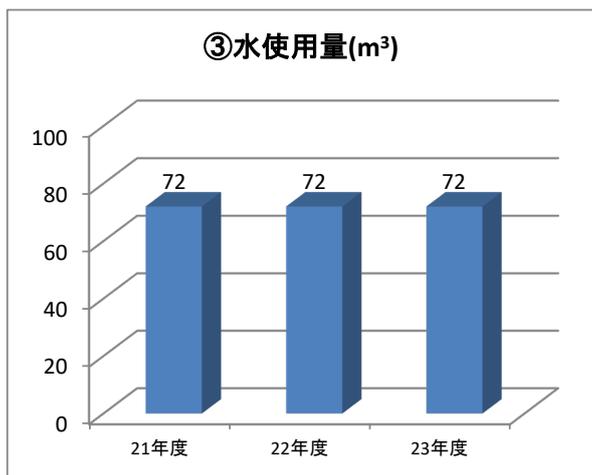
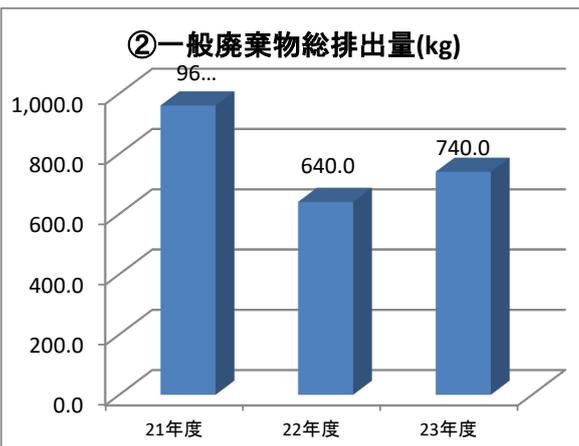
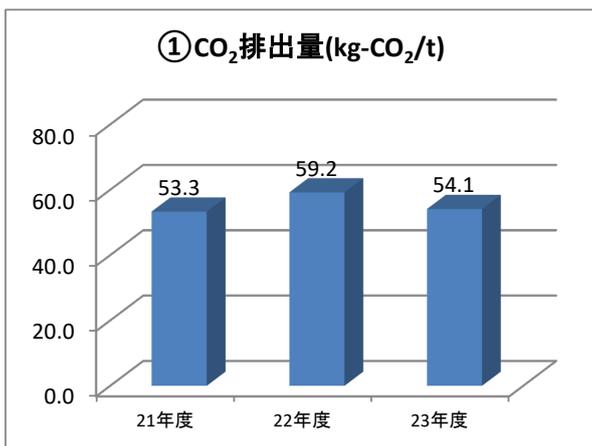
受託廃棄物収集量(t)











7. 環境経営計画の実施状況とその評価、次年度の取り組み内容

2023年度における実施状況とその評価

[福岡本社]

取組み項目	活動項目	実施状況	評価	次年度の取組み
購入電力 使用量削減	エアコン設定温度の再確認 (夏場室温27°C・冬場室温21°C)	△	外気温に応じた設定温度の調節ができて いる。 (管理は室温)	引き続き継続しておこなう。
	エアコンフィルターの清掃	○	年4回の清掃は徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
	蛍光灯の配列検討・不要部所の消灯	○	終礼での定期的な周知を実施。	引き続き継続しておこなう。
	業務効率化による夜間点灯時間の短縮	○	業務改善できている。	引き続き継続しておこなう。
	社屋の駐車場外灯の照明時間の短縮	○	外灯点灯前に仕事を終業し短縮できている。	引き続き継続しておこなう。
軽油・ガソリン 等 使用量削減	収集運搬車両のコース・搬入処理場の検討	○	常時コースの見直し改定をおこなっている。	引き続き継続しておこなう。
	安全運転・アイドリングストップの実施	○	終礼での定期的な周知を実施。	引き続き継続しておこなう。
	始業時車両点検・車両不調時の早目の点検	○	点検表を元に毎日点検をおこなっている	引き続き継続しておこなう。
	処理場直接搬入増加コースの検討	○	直接搬入をおこなうようにしている。	引き続き継続しておこなう。
	効率アップの為、大型車の導入検討	—	車両購入の際は大型車を購入を検討。	引き続き継続しておこなう。
	CO ₂ 低排出車両への入れ替え	○	2023年8月に4t保冷車を1台 入替 2024年3月に4t保冷車を1台 入替	計画的に車両の入替えを実施する。
	エコドライブ勉強会の実施	○	定期的におこなっている。	引き続き継続しておこなう。
	車両エアコンのこまめなスイッチ操作実施	△	燃費意識が共有されており実施されている。	引き続き継続しておこなう。
一般廃棄物 総排出量 削減	白上質紙の裏面利用の促進	○	裏面の利用は継続的にされている。	引き続き継続しておこなう。
	両面コピーの実施促進	○	極力両面印刷を実施している。	引き続き継続しておこなう。
	紙ゴミはシュレッダー処理し、リサイクルへ	○	徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
	一般廃棄物の排出抑制 (有価物・資源ゴミは分別)	○	分別を徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
水使用量 削減	洗車時の止水装置使用	○	洗車時の取り決めで全て設置済。	引き続き継続しておこなう。
	洗濯時間 30分/1回	○	時間はタイマーで管理している。	引き続き継続しておこなう。
	節水こまの取り付け・垂れ流しの禁止 ・まとめ洗い	○	当番制でまとめ洗いを実施している。	引き続き継続しておこなう。
	植木への水撒きの検討	○	適正に散水が実施されている。	引き続き継続しておこなう。
教育・研修	産廃法改正時の指導・教育	—	改正等あればその都度従業員に教育する。	引き続き継続しておこなう。
	中途採用社員の教育	○	座学や同行等を管理者が実施。	引き続き継続しておこなう。
	EA21活動に関する指導・教育	○	概ね実施できている。	定期的に報告をおこなう。
	ユーザーへの研修会アピール	×	コロナの為、感染対策を優先した。	コロナの状況が落ち着き次第実施。
	ユーザー研修会の実施	×	コロナの為、リモートでの研修会実施。	コロナの状況が落ち着き次第実施。

実施状況 ○:実施できている △:だいたい実施できている ×:実施できていない —:該当しない

[長崎事業所]

取組み項目	活動項目	実施状況	評価	次年度の取組み
購入電力 使用量削減	エアコン設定温度の再確認 (夏場室温27°C・冬場室温21°C)	△	外気温に応じた設定温度の調節ができて いる。 (管理は室温)	引き続き継続しておこなう。
	エアコンフィルターの清掃	○	年4回の清掃は徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
	蛍光灯の配列検討・不要部所の消灯	○	不要部所の消灯を徹底している。	引き続き継続しておこなう。
	業務効率化による夜間点灯時間の短縮	○	繁忙期は点灯時間が長くなることもある。	引き続き継続しておこなう。
	社屋の駐車場外灯の照明時間の短縮	○	徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
軽油・ガソリン 等 使用量削減	収集運搬車両のコース・搬入処理場の検討	○	運搬効率を考えコースの見直し改定を実施。	引き続き継続しておこなう。
	安全運転・アイドリングストップの実施	○	始業の際の呼びかけを実施	引き続き継続しておこなう。
	始業時車両点検・車両不調時の早目の点検	○	点検表を元に毎日点検をおこなっている	車両点検により事故を未然に防ぐ
	処理場直接搬入増加コースの検討	○	可能な限り直接搬入を行うようにしている。	引き続き継続しておこなう。
	効率アップの為、大型車の導入検討	—	車両購入の際は大型車を購入を検討。	引き続き継続しておこなう。
	CO ₂ 低排出車両への入れ替え	—	今年度は入れ替えが不要だった。 2023年度 廃車3台	計画的に車両の入替えを実施する。
	エコドライブ勉強会の実施	○	定期的におこなっている。	引き続き継続しておこなう。
	車両エアコンのこまめなスイッチ操作実施	△	エアコンの無駄な使用を控える様指示をした。	引き続き継続しておこなう。
一般廃棄物 総排出量 削減	白上質紙の裏面利用の促進	△	裏面の利用は継続的にされている。	コスト削減の意識付けをおこなう。
	両面コピーの実施促進	○	極力両面印刷を実施している。	コスト削減の意識付けをおこなう。
	紙ゴミはシュレッダー処理し、リサイクルへ	○	徹底できている。	個人情報漏洩防止の注意喚起。
	一般廃棄物の排出抑制 (有価物・資源ゴミは分別)	○	分別を徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
水使用量 削減	洗車時の止水装置使用	○	問題なく使用できている。	引き続き継続しておこなう。
	洗濯時間 30分/1回	○	時間はタイマーで管理している。	引き続き継続しておこなう。
	節水こまの取り付け・垂れ流しの禁止 ・まとめ洗い	○	当番制でまとめ洗いを実施している。	引き続き継続しておこなう。
	植木への水撒きの検討	△	適正な散水実施の指示をした。	引き続き継続しておこなう。
教育・研修	産廃法改正時の指導・教育	—	改正等あればその都度従業員に教育する。	引き続き継続しておこなう。
	中途採用社員の教育	○	座学や同行等を管理者が実施予定。	引き続き継続しておこなう。
	EA21活動に関する指導・教育	○	概ね実施できている。	定期的に報告をおこなう。
	ユーザーへの研修会アピール	×	コロナの為、感染対策を優先した。	コロナの状況が落ち着き次第実施。
	ユーザー研修会の実施	×	コロナの為、感染対策を優先した。	コロナの状況が落ち着き次第実施。

実施状況 ○:実施できている △:だいたい実施できている ×:実施できていない —:該当しない

[熊本営業所]

取組み項目	活動項目	実施状況	評価	次年度の取組み
購入電力 使用量削減	エアコン設定温度の再確認 (夏場室温27°C・冬場室温21°C)	△	外気温に応じた設定温度の調節ができて いる。 (管理は室温)	引き続き継続しておこなう。
	エアコンフィルターの清掃	○	年4回の清掃は徹底できている。	徹底できているので引き続きおこなう。
	蛍光灯の配列検討・不要部所の消灯	○	不要部所の消灯を徹底している。	引き続き継続しておこなう。
	業務効率化による夜間点灯時間の短縮	○	繁忙期は点灯時間が長くなることもある。	徹底できているので引き続きおこなう。
	社屋の駐車場外灯の照明時間の短縮	—	該当しない。	引き続き継続しておこなう。
軽油・ガソリン 等 使用量削減	収集運搬車両のコース・搬入処理場の検討	○	運搬効率を考えコースの見直し改定を行う。	引き続き継続しておこなう。
	安全運転・アイドリングストップの実施	○	始業の際の呼びかけを実施	引き続き継続しておこなう。
	始業時車両点検・車両不調時の早目の点検	○	各車の点検表を元に毎日点検を実施	車両点検により事故を未然に防ぐ
	処理場直接搬入増加コースの検討	○	可能な限り直接搬入を行うようにしている。	引き続き継続しておこなう。
	効率アップの為、大型車の導入検討	—	車両購入の際は大型車を購入を検討。	引き続き継続しておこなう。
	CO ₂ 低排出車両への入れ替え	○	2023年12月に3t保冷車を1台 入替 2024年3月に4t保冷車を1台 入替	計画的に車両の入替えを実施する。
	エコドライブ勉強会の実施	○	定期的におこなっている。	引き続き継続しておこなう。
車両エアコンのこまめなスイッチ操作実施	○	エアコンの適正な使用を指示した。	引き続き継続しておこなう。	
一般廃棄物 総排出量 削減	白上質紙の裏面利用の促進	○	裏面の利用は継続的にされている。	コスト削減の意識付けをおこなう。
	両面コピーの実施促進	○	極力両面印刷を実施している。	コスト削減の意識付けをおこなう。
	紙ゴミはシュレッダー処理し、リサイクルへ	○	徹底できている。	個人情報漏洩防止の注意喚起。
	一般廃棄物の排出抑制 (有価物・資源ゴミは分別)	○	分別を徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
水使用量 削減	洗車時の止水装置使用	○	問題なく使用できている。	水使用量削減の意識付けを行う。
	洗濯時間 30分/1回	○	時間はタイマーで管理している。	引き続き継続しておこなう。
	節水こまの取り付け・垂れ流しの禁止 ・まとめ洗い	○	無駄な水の垂れ流し等はなかった。	節水の意識づけを行う。
	植木への水撒きの検討	○	適正な散水が実施されている。	引き続き継続しておこなう。
教育・研修	産廃法改正時の指導・教育	—	改正等あればその都度従業員に教育す る。	引き続き継続しておこなう。
	中途採用社員の教育	○	座学や同行等を管理者が実施予定。	引き続き継続しておこなう。
	EA21活動に関する指導・教育	○	概ね実施できている。	定期的に報告をおこなう。
	ユーザーへの研修会アピール	×	コロナの為、感染対策を優先した。	コロナの状況が落ち着き次第実施。
	ユーザー研修会の実施	×	コロナの為、感染対策を優先した。	コロナの状況が落ち着き次第実施。

実施状況 ○:実施できている △:だいたい実施できている ×:実施できていない —:該当しない

[北九州事業所・西港倉庫]

取組み項目	活動項目	実施状況	評価	次年度の取組み
電気使用量削減	業務効率化による夜間点灯時間の短縮	○	徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
軽油・ガソリン等使用量削減	収集運搬車両のコース・搬入処理場の検討	○	運搬効率を考えコースの見直し改定を行う。	引き続き継続しておこなう。
	安全運転・アイドリングストップの実施	○	始業の際の呼びかけを実施	引き続き継続しておこなう。
	始業時車両点検・車両不調時の早目の点検	○	各車の点検表を元に毎日点検を実施	車両点検により事故を未然に防ぐ
	CO ₂ 低排出車両への入れ替え	—	今年度は入れ替えが不要だった。	計画的に車両の入替えを実施する。
	エコドライブ勉強会の実施	○	定期的におこなっている。	引き続き継続しておこなう。
一般廃棄物総排出量削減	車両エアコンのこまめなスイッチ操作実施	△	エアコンの適正な使用を指示した。	引き続き継続しておこなう。
	白上質紙の裏面利用の促進	○	裏面の利用は継続的にされている。	引き続き継続しておこなう。
	両面コピーの実施促進	○	極力両面印刷を実施している。	引き続き継続しておこなう。
水使用量削減	紙ゴミはシュレッダー処理し、リサイクルへ	○	徹底できている。	引き続き継続しておこなう。
	節水啓蒙表示 ・垂れ流しの禁止 ・まとめ洗い等	○	無駄な水の垂れ流し等はなかった。	引き続き継続しておこなう。
教育・研修	産廃法改正時の指導・教育	—	改正等あればその都度従業員に教育する。	引き続き継続しておこなう。
	中途採用社員の教育	○	座学や同行等を管理者が実施予定。	引き続き継続しておこなう。
	EA21活動に関する指導・教育	○	概ね実施できている。	定期的に報告をおこなう。
	ユーザーへの研修会アピール	×	コロナ感染拡大時は研修会アピールを控える。	コロナの状況が落ち着き次第実施。
	ユーザー研修会の実施	×	コロナの為、感染対策を優先した。	引き続き継続しておこなう。

実施状況 ○:実施できている △:だいたい実施できている ×:実施できていない —:該当しない

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

	関連法規名	区 分	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の収集・運搬	○
2	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物の収集・運搬	○
3	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物の収集・運搬	○
4	家電リサイクル法	特定家電製品の収集・運搬	○
5	フロン排出抑制法	フロン含有機器の収集・運搬 社内フロン含有機器の簡易点検 社内フロン含有機器の定期点検(依頼)	○
6	自動車リサイクル法	車両の購入時	○

* 環境関連法規の遵守状況確認日：福岡本社 2024年4月10日

長崎事業所 2024年4月10日

熊本営業所 2024年4月10日

北九州事業所 2024年4月10日

* 当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、

違反・訴訟などは過去3年間ありませんでした。

9. 環境経営に関する取組事例等の紹介

SDGsは、気候変動による地球規模の環境問題、人口増加、貧困、格差などの社会問題を解決し持続可能な社会の実現を目指しています。

(株)日本医療環境サービスは経営理念のもと事業活動を通じて環境負荷のゼロを目標にし、目指す姿サステナブルビジョンでは「地球、社会との共生により循環型社会を実現する」ことを掲げています。



1) 環境教育

* ユーザーに対する環境教育

・「感染性廃棄物処理マニュアル」を基本にした医療廃棄物研修会の実施(継続)

パワーポイントにて基本パターンの資料を作成しており、これを病院を中心としたお客様に提示し、要望のある内容を加えて研修資料を作り上げ、そのお客様に合った研修会を実施するよう心掛けています。毎年定期的にも実施して頂けるお客様も増加しており、この研修により医療廃棄物特に感染性廃棄物の排出から最終処分までの流れ・処理工程等を認識して頂き、分別の必要性・医療廃棄物のリサイクル処理・コストダウン・事故防止等と呼びかけ、お客様の為になる研修会としていきたい。また、紙おむつを適切に使用しコストダウンにつながるよう資料提供やアドバイスもおこなっている。

[2023年度]

福岡本社 12施設 12回開催
参加者 合計 350名

長崎事業所 5施設 5回開催
参加者 合計 130名



* 社内に対する環境教育

・社員の環境意識向上と啓発(継続)

廃棄物処理法改正時や環境に関わる課題、エコドライブ講習、安全運転教育、エコアクション21活動結果報告を行います。

[2023年度]

福岡本社 12回実施/年間

長崎事業所 15回実施/年間

熊本営業所 16回実施/年間

北九州事業所 12回実施/年間



環境価値への貢献



3) 社内緑化の推進

* 駐車場周囲に植木を植栽・社内には観葉植物等の緑を設置(継続)

駐車場の周囲に「つつじ・カイズカイブキ」を植栽しており、事務所入口横には「つつじ等」の花壇を設置している。これを業務部・営業部社員が散水・除草等を実施して管理をしており、カイズカイブキは大きいもので3.5m程に成長し、駐車場の緑化に役立っている。
社内には廊下・室内に観葉植物を多数設置して総務部が管理し、緑化と共に社員の目を楽しませています。



← 福岡本社の外観

4) 省エネルギーへの取組み



福岡本社 2012年12月 太陽光パネルを設置・事務所・倉庫の蛍光灯をLED照明へ変更。
長崎事業所 2015年12月 倉庫の水銀灯をLED照明へ変更。
全社電力使用量・・・54,548.7kwh
太陽光パネル発電量・・・28,716.0kwh
全社電力使用量の内約5割を太陽光発電で賄っています。



福岡本社 2016年12月
自販機を省エネタイプへ交換。

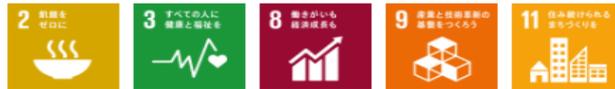


福岡本社 2022年6月
全熱交換器 2機 導入。



CO2低排出車両への買い替え(2024年度4台入替えを実施)

社会価値への貢献



5) 表彰を受けた事例



エコアクション21の10年継続取り組み表彰



福岡県産業廃棄物協会から頂いた優良会員表彰

6) 2017年7月に起きた九州北部豪雨の災害支援協力 (福岡産業廃棄物協会)



宝珠山集積場の災害廃棄物仮置場の様子



7) 事業の透明性に係る基準に適合するための情報を産廃情報ネットの下記URLに記載し公表しております。

URL : http://www2.sanpainet.or.jp/zvohou/index_u2.php?UserID=525972

10. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

今年度も、昨年度同様当社の環境負荷の一番の要因である「軽油・ガソリン等使用量の削減」に関して特に注力して取り組みました。

コロナの感染拡大に伴い受託廃棄物収集量が増加傾向でしたが、昨年に比べて全体の収集量は減少しています。

感染性廃棄物の排出につきましてはピークアウトの可能性が見受けられます。

収集運搬の効率化においては、改善の余地はある為、2025年度迄の環境経営目標を達成するよう取組みを強化して参ります。

評価としましては、目標値・活動計画共に概ね達成できているので、次年度も、エコアクションにおけるPDCAのサイクルをスパイラルアップして活動を発展させます。

また、全社における環境経営を振り返り、経営における課題とチャンスが明確化してきてますので今後の環境経営に活かし進めて参ります。

2024年 4月1日

株式会社 日本医療環境サービス
代表取締役 北村 洋輔